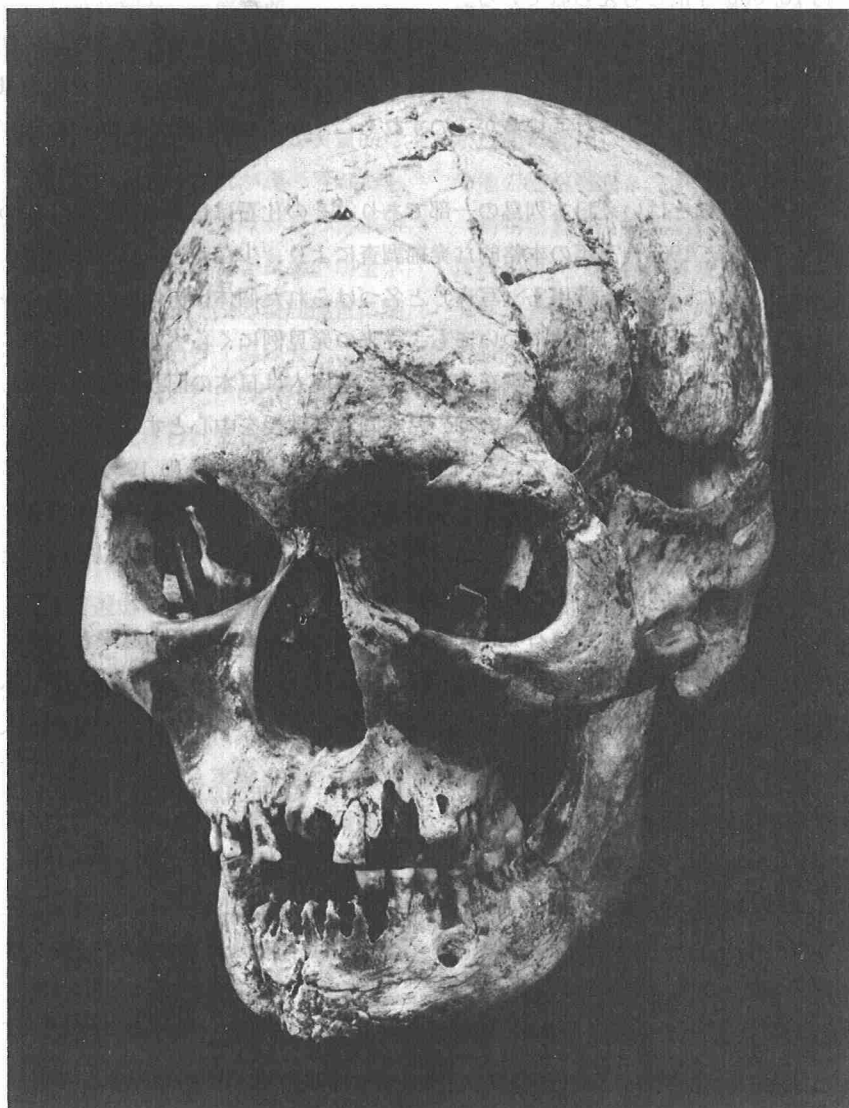


廣報

東京大学理学部



目次

| | |
|------------------|--------|
| 表紙説明 | 1 |
| 遺伝子実験施設の発足 | 飯野徹雄 2 |
| 嗚呼 辻村太郎先生 | 佐藤 久 3 |
| 東大に来て思うこと | 熊沢峰夫 4 |
| 理学部長と理学部職員組合との交渉 | 7 |
| 学部消息 | 8 |

表 紙 説 明

港川人の化石は1967年、沖縄県那覇市南東の港川で、大山盛保氏によって始めて発見された。その年代は更新世（後期旧石器時代）末期で、¹⁴Cによる年代側定の結果、約18,000年前と考えられている。

日本列島には、おそらく10万年ほど前から人間が住んでいたと思われるが、酸性土壌が多いために、旧石器時代の人骨の発見はきわめて少ない。従来、約10カ所の遺跡からわずかな人骨が発見されているが、いずれもごく小さい断片で、くわしい研究は不可能であった。

港川遺跡は沖縄とはいえ日本列島の一部であり、その化石は日本の旧石器時代の貴重な標本である。1968—74年の本格的な発掘調査により、少なくとも9個体分の人骨化石が発見された。中でも港川Ⅰ（写真）と名づけられた個体は男性で、ほぼ全身の骨が揃っている。また他の個体についても、従来の発見例にくらべると格段に多くの骨が発掘されている。したがって現在のところ、港川人は日本の旧石器時代人としてはもっとも豊富な資料を提供するもので、鈴木尚名誉教授を中心とする研究グループにより、詳細な報告が出版されている（総合研究資料館 Bulletin No.19, 1982）。

港川人は縄文時代人の直接の祖先とみなせるので、現代日本人の祖先にも当ることになる。またその骨形態は、ほぼ同時代の華南の化石（柳江人）によく似ているため、日本人のルーツは中国南部に求められるという可能性が強い。

しかし日本列島には、いろいろな時代に、さまざまなルートからの渡来者があり、日本人の起源を解明することは、それほど簡単ではない。とはいえ、港川人が日本人の基盤となった人びとの代表者であることはほぼ確実で、この標本は今後の日本人研究に、大きな一石を投ずるものといえる。

人類学教室 埴原和郎